

# 令和5年度 第3回 さいたま市放課後子ども総合プラン推進委員会 議事録

1 日 時 令和6年3月18日（月）午前10時～午前11時20分

2 開催場所 武蔵浦和コミュニティセンター8階 第1集会室

3 出席者

(1) 委員

臼杵 信裕 委員長 上野 茂昭 副委員長 森田 真紀子 委員

駒木根 敦子 委員 高橋 麗子 委員 清水 ヨシ子 委員 橋本 正晴 委員

溝口 誠 委員

(2) 事務局

①子ども未来局 子育て未来部長、幼児・放課後児童課課長補佐 外1名

②教育委員会 生涯学習部生涯学習振興課家庭地域連携係長 外1名

管理部学校施設管理課長

4 欠席者 出口 裕貴 委員 野津 美智代 委員

5 議題

(1) さいたま市子ども・青少年のびのび希望プランの進捗状況について

(2) 放課後児童健全育成事業の実施状況等について

(3) 放課後チャレンジスクールの実施状況等について

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴者の数 0人

8 審議の経過

(1) 開会

(2) 子ども未来局 子育て未来部長 あいさつ（略）

(3) 委員長あいさつ（略）

(4) 審議

(5) 事務連絡

(6) 閉会

9 審議内容

(1) さいたま市子ども・青少年のびのび希望プランの進捗状況について

<事務局>

資料2より

①さいたま市子ども・青少年のびのび希望(ゆめ)プランの概要説明、計画と経過説明、

②放課後健全育成事業の放課後児童クラブ量の見込み（利用希望者数）と確保方策（受入可能児童数）の目標値設定

③放課後児童クラブ及びチャレンジスクールの実施箇所目標数

④放課後児童クラブの施設数と待機児童数の推移

⑤入室児童数と受入可能児童数の推移の比較

⑥第2期さいたま市子ども・青少年のびのび希望プランの中間見直し などの説明

<臼杵委員長>

ただいまご説明いただいたわけですが、かなり理解が難しい部分もあったかもしれませんが

も、質問と意見何かございましたら、お願いいたします。

<駒木根委員>

先ほどありましたようにコロナ禍のときには、私どもの民設児童クラブでも極端に利用人数が減りました。実は、運営を心配しなければいけないのかなというところもあったのですが、そこは行政から補助をいただいて、問題なく運営はできました。その後、コロナが明けてからびっくりするほど子どもたちがまた増えていて、定員をオーバーしてでも町の中に子どもがいるよりはいいだろうということで、多めにお預かりしているクラブがだいぶ増えています。コロナが終わってまた戻ってきています。

## (2) 議題2 放課後児童健全育成事業の実施状況等について

①資料3より放課後児童クラブの概要

②資料4より令和5年度小学校区別放課後児童クラブ設置数等と待機児童数

③資料5より令和5年度新設クラブ等、補助制度の新設、変更

④資料5より令和6年度整備計画

⑤資料6より令和5年度支援員の研修、認定資格研修、令和6年度の研修計画

⑥資料7より令和5年度巡回訪問記録

<臼杵委員長>

今の巡回相談の話が出ましたが、市の職員は何名ぐらいでやっていますか。

<事務局>

今は学校の元先生で特別支援学校の経験がある先生が1人いて、さらにもともと当課の職員で同じような経験を持たれた先生を今アドバイザーとしてお願いしていて、その2名の職員でお伺いしています。

<臼杵委員長>

今年度からですか。

<事務局>

これはかなり前から実施しております。

<臼杵委員長>

わかりました。

それでは、資料に基づいて説明いただきましたが、資料3について、何かございますか。

<上野副委員長>

古い建物を利活用している場合、その建物としての健全性は市の方で何か評価されているのですか。

<事務局>

新設で作るという相談があったときには、耐震基準を満たしているかどうかは、必ず確認させていただきます。また、基準を満たしていない場合は耐震工事などを踏まえて整理しています。

<上野副委員長>

私は古い建物について聞いたのですが。

<事務局>

かなり古い建物だと、基本的に新規整備の対象になってない状況です。元々昔からあるクラブだと新設の審査にかからないので、耐震基準を満たしていないという建物もあります。

<上野副委員長>

なるほど。

<臼杵委員長>

他はどうでしょう。それでは、資料4に行きましょう。

<上野副委員長>

資料4の裏面で、常盤北児童クラブ、ちょっと近所なのでたまたま気になったのですけど。

これは調べたら常盤北小の学校の中にあると書いてあるのですが、同じ名前のひらがなで書いた児童クラブが近所にあって、運営しているかわからないのですが。そういう同じ名前なんてあり得るのですか。

<事務局>

同じ運営者ですけど、移転する前のクラブです。

<上野副委員長>

なるほどですね。

<事務局>

そのまま残ってしまっていますね。

<臼杵委員長>

よろしいですか。他いかがですか。

<高橋委員>

私は自分自身が中央区で関わっているので中央区がこんなに待機児童数が多いというのがわかって、今回、数と率の方が出てすごくわかりやすく、改善していただいてよかったなど。結構多くてちょっとびっくりして。この差というのは今後どういう改善をされていくのかが気になったので、お伺いします。

<臼杵委員長>

はい。事務局からどのように解消していくのか。

<事務局>

我々としまでも中央区が一番の課題と考えています。これまでも民設クラブを運営している事業者に新しくクラブを増やせるかどうか、それが難しい場合は、公募で運営していただくことができるところはないかというのを、去年、一昨年とやってきたところですけども、なかなか物件を確保するということが必要になるので、この物件の確保が思うように進まないというのが現状としてあると思います。

今年度は、例えば、資料5の方に記載させていただきましたが、中央区の鈴谷小は、もともとシリウスというクラブを、とても人数が多かったので2つに分けて環境を整備したり、新しくかたつむり学童クラブ鈴谷を作ったりしました。さらに令和6年度にキッズクラブ与野本町第2という与野本町小にも1つ整備が決まっております。

この他にも、他の学区でも整備を進めているところもございます。あとは放課後子ども居場所事業のモデル事業として、それも鈴谷小学校ですが、4月1日から始めますので、ある程度、本年度当初よりは環境が改善されるのではと考えています。

<臼杵委員長>

事務局でも物件を探しているということで、これからもずっと続いていくと思います。

<高橋委員>

ありがとうございました。

<駒木根委員>

1つは与野南ですけど、のっばら学童を開設するときに1つは与野南小を対象として設置していて、実際に児童が来ていると思います。

あと市民の声で私どものところに、美園地区に住んでいる方からホームページからの問い合わせがありました。私どもの学童は保護者が自分たちで作るので、保護者が自分達で探すとそこにぽっかりと学

童が誕生するという仕組みになっている。私どもの方で誰かスタッフがそこへ行って施設を探すということはしてないので、その関係もあって緑区の学童が1つしかないです。

こちらの住民の方から、緑区にクラブ数が少ないので、ぜひ浦和美園に作ってください。今年、学童に落ちてしまっただというその不安の声と期待の声が届きました。メールでしたので、地域で今やっている民設の方が力を出して、施設探しをしていると思うのでということと、あとはもし、新和小学校が近ければということとは回答しましたが、やはりそういうお問い合わせも入ってきます。

<臼杵委員長>

ありがたい対応をしていただきました。

<橋本委員>

資料4で、私は大宮区に待機児童がいないという数字を見て実は正直すごく驚いた1人です。私はPTA会長をやっていた20年ぐらい前から学童保育所から相談を受けていろいろ関わってきたので、耐震の話がありましたけど、最初は木造アパートの2階にあったものが、道路の拡幅で移転をしてくださいと言われ探しました。一生懸命探して民間の90坪の敷地に建っている一軒家を見つけて、そこに入ってもらいました。そしたらそこがやっぱり耐震が心配だと、家主さんの方から言われてまた探して。それで、大宮南小学校の学校の敷地とは別のプールの脇に空いているところがあったので、それを校長先生に頼んで教育委員会に交渉してもらってそこに建てたのが1つ目の学童なわけです。それからどんどん利用者が増えていったので、民間のビルの2階とか3階とか、そういったところに入り始めて、民家にも入った。そういう中で、多分また足りなくなるだろうということで、今ここに写真があります北袋自治会館。これはもともとマンションの管理組合が持っている事務室だった。それを市に管理の委託を受けて、実際の責任者としては北袋の自治会長さんが管理者で「うちの2階が空いているけど、何か利用の方法はないだろうか」と相談をされてぜひ学童保育所に来ていただければ地元の方は喜ぶよという話をしたら、それをやってくださいと。それで半分使って、また増えてきたので、またここで、さらにとなりをリフォームっていうか、リノベーションして入ると。

ところが、今、大宮南小学校はすごく児童生徒が増えていまして。去年10教室、今年10教室、プレハブ校舎をたくさん建てたという状況です。さらにまだ増えるだろうと言われていて大宮南小では受入れができなくなるからということで、今度、上木崎小学校の方へも行けるような政策を取ろうということで動いている。そういう中でまた学童保育所が、来年度は足りるかどうかはわかりませんが、私はいつも心配しています。学童保育は大丈夫かと。ただ学校に聞いても学校はわからない。それはちょっと違うかなと思うので、ぜひ学校長にもこの情報を出して欲しいです。うちの学校は収まっているのかどうかと言うのは教えて欲しい。私もこの会議に出てこなければ情報がわからない。ですから、ぜひ校長先生にも問題意識をしっかりと持っていただく必要があると思うのでこの情報を出してもらいたいと思います。実は新1年生はもう7クラスというのがわかっています。本当に、新しく北袋で増やす、その50人規模ぐらいで収まるかどうか、非常に心配私はしています。

<臼杵委員長>

大宮南小はなんでそんなに増えているのでしょうか。

<橋本委員>

シントシティという1,400世帯のマンションが建設されたからです。

そこには小学生と小学生予備軍で800人の子どもがいると。ですから、これから数年間は7クラスだとかというような新入生が出てくる。今まで1学年3クラスだった学校がそれ以上の倍のクラスでどんどん増えていくという状況で多分給食室がもうパンクする状態というところまでできています。

今日欠席されていますけど、野津先生が大宮南小学校の校長先生で非常に児童の増加という意味で頭を悩ましていると。教室は確保できましたが、小学校の運動場が狭くなりましたから、今は大宮高校の

グラウンドを借りているようです。運動会もできなかった頃もあって、来年度は大宮南中学校の校庭を借りて運動会というような工夫を学校はしています。そんな状況の中で多分学童も増えていくので、私は非常に心配しています。

<臼杵委員長>

ありがとうございます。

<駒木根委員>

ご心配いただいております。おっしゃる通りで、実は、保護者会の中で、施設を探すだけの係というのが、昨年から作ったらしくて。今年度5クラブありましたが、その5クラブから施設を探すだけの係ということで、主に情報誌やネットで見て、これは学童で使えそうだなと思うと私のところに連絡が来るという仕組みになっていました。支援員たちにももちろん共有されます。それで今年度は2か所の情報があって、小学校の目の前とか、北袋でもちょっと上木崎小に近い側の場所の情報をいただきました。ただ、問い合わせたらもう決まってしまったということだったり、子どもが歩くのにはちょっと遠すぎるということだったりしてなかなか決まらなかったのですが、自治会館の2階を2つに分けてもらうこととは別に、1月ぐらいにその委員たちから情報が上がってきて、大宮南小学校の道をまっすぐもうちょっと東の方の病院の方に入っていくと、道がぐっと狭くなるそのちょっと先のところに物件があったということで、そこがほどほどの広さでいいのではないかとということで決めさせてもらったのですが、途中で歩道が切れてしまう。歩道はずっと繋がっているのですが、施設があるのは歩道のない側なので、どうしても1か所信号渡って、歩道のないところはテコンドー教室があってピザ屋さんの目の前あたりで、そのところはほんの少しの間なのですけれども保護者たちはそこがちょっと心配だということをしているので、またその安全面については、行政のお力いただいて、何か整備しなければいけないなと思っています。なので、今年度そこが40人ぐらいは確保できたのですが、おっしゃるように、学童保育所は今度4月の入所は70人です。

<臼杵委員長>

1か所新設したぐらいじゃ足りないということですね。

<駒木根委員>

はい。

ですので、今年たまたま2つでしたので70人ですけれども、来年も70人ですよ。

1個作っただけで足りないというような状況が続いています。

<臼杵委員長>

ありがとうございました。いろいろ内実が出ましたので1つ参考になるところがあったら、心にとめといていただいて、お願いしたいというふうに思います。他にございますか。

<駒木根委員>

ここに書いてあることではないですけれども、先ほど「らいおんきっず」がちょっと小さな施設という話もありましたが、今すごく家賃が上がっていて、新設をするときに、家賃で選ぶと施設がどうしても小さくなってしまって、小さいのは作るとまたすぐに作らなきゃいけないという問題が起きています。

基本的な家賃っていうのが、2006年に12万円に補助が上がりましたが、そこから基礎のところはずっと変わらないですが、相場が上がってきているので、なかなか作りづらかったり、その分が保育料で賄わなければいけなかったりという問題が出ているので、少し家賃の見直しはしていただけると施設探しがしやすくなるのではないかなと思っています。

改修費の方はだいぶ上げていただいたので、今までよりも自己負担が減ったのですごく感謝しているところですよ。

<臼杵委員長>

その他いかがですか。資料6の方はどうでしょうか。

<駒木根委員>

研修検討委員会の方でもいろいろご検討いただいているので検討済みかもしれないですが、昨年も子どもの痛ましい保育園バスの事故とか他にも学童の方にあったこともありました。子どもに対する職員の虐待問題っていうのが出ています。大声を張り上げ、怒鳴りつけるとか、これをしなかったらおやつを与えないとか。児童虐待防止研修というのはありますが、これは比較のご家庭の虐待があった場合にそれを拾い上げるところの研修でして、それはそれでとても大切なことなのでもちろん抜けては困るのですけれども、私たち働く職員がどういうふうに子どもと接触するかということで、今年度最後の1月18日の子どもの権利と支援の役割についてのこの研修はすごくよかったです。先生のお話の中身からその児童虐待というのはこういうことに値するんだという研修も入れていただくことで、これぐらいは平気だろう、これは虐待じゃないだろうという軽い気持ちでほとんどの職員さんはやった結果が、テレビで報道されるようなことになっているように見受けられているので、さいたま市の子どもたちについては研修機会があるので、こうした方面からも防止ができればいいなと望んでいるところです。

(3) 議題3 放課後チャレンジスクールの実施状況等について

- ①資料8よりチャレンジスクール推進事業の概要
- ②資料9より放課後チャレンジスクール実施校と放課後児童クラブとの連携状況
- ③資料9より放課後チャレンジスクール実施校の状況等
- ④資料9より令和5年度の運営会議・企画会議・研修実績
- ⑤資料10より令和5年度チャレンジスクール訪問記録

<臼杵委員長>

チャレンジスクールですが、ご質問あるいは意見ございますか。

<上野副委員長>

私が常盤小のPTA会長をしているときに、埼玉大学の学生をチャレンジスクールに送り込んでいたことがあります。ただ、そのスタッフの方がご高齢なのか、おばあちゃん世代と学生世代とのギャップによるいさか이가あって、端的に言うと学生が子どもたちの前で怒られて、もう何のために私たちはやっているのって学生が涙ながらに訴えてきて、引き上げさせたことがありました。そういう実態があった中で芝浦工業大学と文教大学と埼玉大学で説明会をされたということですが、今までにそういう学生のボランティアスタッフっていうのは随時いたと思うのですが、そういう学生からの声やフィードバックとかがありましたでしょうか。

<事務局>

あまり悪いお話は聞かないです。教員を目指している学生が多いものですから、非常に勉強になったと、よいご意見が多いというのが実情です。

ただ、そうした世代間の格差っていうのはやはりどこにでもあり得るようなお話かなと思いますので、引き続きその辺を注意して事業を実施して参りたいと思っております。

<上野副委員長>

高砂小と仲町小も近所で、そこも学生を送っていたこともありました。その2校ではなくて、常盤小だけだったので、その辺も、もしフォローしてあげていただけたら嬉しいです。

<臼杵委員長>

学生からの情報とか意見とかそういうのを聞く機会というのは設けられるわけですか。学生のほうか

ら言い出さないとないのか。

<事務局>

全校ではないですけども、こちらから各学校に職員が伺いまして、スタッフにお話を聞いたりとか、あと委託先の事業者もございまして、委託事業者の方も定期的に巡回をしておりますので、そちらの方でお会いして話を伺ったということはございます。

<臼杵委員長>

学生は何名ぐらいがボランティアで入っていますか。

<事務局>

その学校によって違いますが1桁とかそのくらいです。

<臼杵委員長>

そうすると、意見を聞きたいとか、相談にのるとかっていうのは個別の対応になるのですか。

<事務局>

そうですね。どうしてもってことであれば個別に対応いたします。

<高橋委員>

私は小学校でも中学校でもチャレンジスクールでスタッフをやっていますけど、中学校の場合は、大学生の学生さんが来ていただくとすごくいい刺激になって、身近なちょっと年上の方ということで勉強を教えてもらうにも、大人のスタッフの方よりは、大学生のスタッフさんの方が生徒たちも親しみやすくよかったなって見えていたのと、あと、定期的にスタッフにアンケートをしてくださっていて、土曜チャレンジも放課後チャレンジも2枚あるので、そちらの方でスタッフさんの意見が言えればいいのかと思います。

ただ、そのアンケートも毎回同じ内容だったりするので、ちょっと変えてもらいたいなと思ったりもするときがあります。

<橋本委員>

上野委員さんの話では組織的に学校から送り出してくださっているのでしょうか。

<上野副委員長>

個人的に声をかけていました。

<橋本委員>

そうですね。私もずっと小学校のチャレンジスクールの実行委員長やっていましたけれども、以前は大宮高校の生徒さんに声かけて、3人ぐらい来てもらっていた時期もあります。

ただ、コロナになってしまって、それをストップしていて、今もちょっと再開できるかどうか難しいかなと思っているところです。ただ、大学生は教育実習生で来た学生さんを、コーディネーターの先生が捕まえてくださって、それで今年度は2人来てくれていました。ですから、地域の情報、ネットワークで来る方と、教育実習生で教員目指している方ですから、熱心にやっただいて大変助かりました。若い方は子どもに人気があります。若い方に加わっていただくのは非常にありがたいです。

ただ、さっきお話がありましたように、トラブルがあったというのは、それこそやっている方の個人の資質の問題と、ずっとやってくるとなかなか新しい方向に変えたり、新しい流れを入れたりというのがやりづらいという中でトラブルなのかなと思います。上に立つ人がそれをできないと、やっぱり厳しいのかなと思います。学生さんには気の毒なことしたなと思いました。

<臼杵委員長>

ありがとうございました。他いかがですか。チャレンジスクール全般で結構です。

<溝口委員>

先ほどおっしゃった話で、現実にあるんですよ。それは、今年度もありまして、大学生の派遣を大学

の方で中止するということが。緑区的美園地区という中央区と同じように肩を並べて人口増加の多い地区で、その一つの学校が、ちょっとボタンのかけ違いもありまして。要するに学校地域連携コーディネーターと教室コーディネーターの2人が、チャレンジスクールの状況を見て、お手伝いしていただくスタッフを見ているわけですから、採用するときにもそれはきつく言っているはず。ただ、血気盛んなスタッフの場合、どうしてもカッととなるとやってしまう、みんなの前で。だから、私たちの場合は、子どもたちがいる前では言わないと言っています。必ず教室コーディネーターか学校地域連携コーディネーターに報告しなさいと。事故も同じで、けがをしたということも自分たちだけで処理すると同時に、報告をどちらかに必ずしなさいっていう組織を作っているのですけどね。ちなみに、派遣するときは4つの小学校に一つの大学が派遣していただきます。

<臼杵委員長>

これ授業の一環としてやっているのですか。

<溝口委員>

大学の授業の一環としてやっている。決められた単位で来ます。

今度はコーディネーターの教育をしないといけない。特に最近うちの場合もスタッフ全員に、そこに参加していただいた学生さんたちにもアンケートをとっている。来てくれた学生さんは、なかなか面白かったと。ただ、見ているとやっぱりハラハラしますね。普段子どもたちは、私たちが相手にしているわけですが、そこへ若いお姉さんやお兄さんが来ると自分の兄、姉みたいな感じですよ。だから、べったり子どもが腕に絡まったりすることもあるので、そういうときにスタッフが子どもたちの前で言うはずいから、見えないところで言うということはあると思います。

<臼杵委員長>

分かりました。ありがとうございました。全体でよろしいですか。

ないようですので、事務局の方に進行をお渡しいたします。

(4) 事務連絡

(5) 閉会

10 問い合わせ先

子ども未来局 子育て未来部 幼児・放課後児童課

048-829-1717

11 その他